

## アジア太平洋小売業者大会について

1978年5月に日本小売業協会が設立された後、1980年6月、東京池袋サンシャインシティにおいて、日本小売業協会と全米小売業協会との共催による「第7回世界小売業者会議東京大会」が開催された。アジアで初めてのこの世界大会は、23カ国から代表的な小売業者941人が参加し成功裡に終了した。

世界大会が終了した後、本格的なアジア地域の発展を見据え、また、アジア地域の小売業の育成のための援助が重要になるとの考えから、「アジア小売業者大会」の開催について提案があり、準備が進められた。そして1983年に第1回目の「アジア小売業者大会」が、東京において11カ国596名の参加を得て開催された。

その後、隔年、各国で開催されてきたが、2007年の東京大会より、参加国にオセアニア諸国も加わったことから、「アジア太平洋小売業者大会」と名称変更された。参加国・参加者数は大会を重ねるに従って増え、現在では世界有数の小売業の国際会議に発展している。

2019年には、第19回大会が、中国・重慶において開催され、20カ国・地域から3,800名もの参加者（日本からは480名参加）となった。また、2022年には、コロナ禍により延期となっていた第20回大会が、インドネシア・ジャカルタにおいて開催された。本大会は、新型コロナウイルス感染症の感染が収束していない状況に鑑み、史上初めてとなるリアル参加とオンライン参加を併用した「ハイブリッド形式」での大会となり、アジア・太平洋小売業協会連合会（FAPRA）に加盟する20カ国・地域をはじめとする国々より、1,100名（リアル参加：100名、オンライン参加：1,000名）が参加した。（日本からはリアル参加：4名、オンライン参加：292名）

なお、「アジア・太平洋小売業協会連合会（FAPRA）」は、1989年9月に第4回大会がシンガポールで開催された翌10月に、アジア・太平洋地域の小売業協会が加盟する団体として発足し、FAPRAの活動を通じて、同地域の小売業協会の連携が一層緊密となる体制が整った。FAPRAには、現在18カ国・地域が加盟している。